

政治・経済

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

平成 21 年度大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の公民科の受験者数は、305,739 人で、昨年度比 758 人（0.3%）の減少となった。このうち、221,750 人が「地理歴史・公民科重複受験者」で、地理歴史科受験者の 61.6%が公民科を受験したことになる。これは昨年度比 2,871 人（1.3%）の減少となった。

各科目の受験者数について見ると、「現代社会」は昨年度比 4,961 人（2.8%）減少したが、「倫理」は昨年度比 1,976 人（3.9%）増加し、「政治・経済」も昨年度比 2,227 人（2.8%）増加した 82,845 人となった。「現代社会」の受験者が減り「倫理」・「政治・経済」の受験者が増加した理由として、昨年度の「倫理」・「政治・経済」の平均点が「現代社会」と比べ高かったこと等が考えられる。

本年度は、教科書レベルの基礎的な知識を問う問題が大幅に増加し、論理的な思考力・応用力を問う問題が減少した。また、資料等を使って考えさせる問題は、グラフの読み取りを中心に、昨年度と同程度出題された。さらに、時事的な知識から諸課題を考えさせる問題は昨年に比べて減少したが、例年どおり受験者の身近な諸課題への関心度・理解度が問われた。

リード文は、テーマ性を持った文章で、受験者に対して現代社会の諸課題への関心を喚起するものであった。大問のテーマ・内容としては、南北問題、表現の自由、国民の政治参加、日本経済の諸課題、農業における国内外の課題等が取り上げられた。

出題は、政治・経済全分野にわたる総合的な内容で、受験者に対して最近の社会情勢を含め現代社会の諸課題について、多角的な視点を持ってほしいという出題者のねらいが感じられる。

以上のことを含め、細部にわたる評価に当たっては、次の点に留意して行った。

- (1) 高等学校学習指導要領の目標・内容に適合しているか。また、それに準拠した教科書や授業内容に即した問題であるか。
- (2) 基礎的・基本的なものから広い視野に立った理解力・思考力を問う総合問題まで、バランス良く配分されているか。
- (3) 「政治・経済」という科目の性格にかんがみ、身近な社会問題についての関心と考察を促すように工夫されているか。
- (4) 各分野の問題配分は適切か。問題の出題方法・配点・難易度は適切か。
- (5) 過去の問題に対する意見や評価を生かしているか。

2 試験問題の内容、範囲等

第1問 国際社会の課題の一つである南北問題をテーマとしたリード文で、政治・経済分野にわたる多角的な視点から、基礎的な知識を問う総合問題である。

問1 一人当たりのGNI（国民総所得）と乳児死亡率について、基礎的な知識をもとに資料

を読み取り、思考力を問う問題である。

- 問2 発展途上国について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問3 経済学者の諸理論について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問4 安全保障理事会について、正確な知識を問う問題である。やや難しい。
- 問5 発展途上国が行った国際秩序の変革について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問6 冷戦期における国際社会の動きについて、基礎的な知識を問う問題である。
- 問7 難民について、正確な知識を問う問題である。やや難しい。
- 問8 国際機関の活動について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問9 日本のODA（政府開発援助）について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問10 地球環境問題に対する国際連合の取組について、基礎的な知識を問う問題である。やや難しい。

第2問 日本国憲法が保障する表現の自由に関して、その現状と課題をテーマとした政治分野を中心とした問題である。受験者に対して、メッセージ性の強いリード文である。

- 問1 表現の自由について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問2 日本における民主政治の制度について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問3 インターネットについて、時事的な知識を問う問題である。
- 問4 新しい人権について、基礎的な知識を問う平易な問題である。
- 問5 日本における裁判制度と歴史について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問6 国会議員の地位について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問7 法律の制定について、基礎的な知識を問う問題である。

第3問 日本における国民の政治参加に関して、権利や制度及びその課題をテーマとしたリード文で、政治分野からの出題である。

- 問1 参政権について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問2 選挙制度について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問3 地方自治について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問4 住民投票について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問5 ブライスの言葉について、基礎的な知識をもとに思考力を問う良問である。
- 問6 マスメディアと世論について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問7 デモ・陳情・請願の世論調査について、資料を用いて判断力を問う平易な問題である。

第4問 日本経済における労働や社会保障などの諸課題をテーマとした会話形式のリード文で、経済分野についての基礎的な知識を問う問題である。

- 問1 景気循環の類型について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問2 雇用形態の多様化について、時事的な知識を問う問題である。
- 問3 中小企業について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問4 公務員の労働三権について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問5 金融について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問6 日本の社会保障制度について、基礎的な知識を問う問題である。
- 問7 世界の社会保障制度の歴史について、基礎的な知識を問う問題である。

第5問 日本の農業における国内外の課題をテーマとしたリード文で、経済分野の基礎的な知識や思考力を問う問題である。

問1 農業政策について、基礎的な知識を問う問題である。

問2 産業構造の変化について、基礎的な知識を問う問題である。

問3 農産物価格の需要曲線と供給曲線について、資料を読み取り、分析力・判断力を問う応用問題である。基礎的な知識をもとに思考力も問われる良問である。

問4 内外価格差について、資料を用いて分析力・判断力を問う応用問題である。

問5 環境保全と農業政策のあり方について、基礎的な知識を問う問題である。

問6 市場の失敗と政府の施策について、基礎的な知識をもとに思考力を問う問題である。

問7 消費者保護のための法制度について、基礎的な知識を問う問題である。

3 試験問題の分量・程度

- (1) 試験問題の分量・程度は、資料のような観点で分類した。教科書に基づく知識を問う問題が、昨年度の22問55点から30問77点に増加した。教科書に基づく知識を使って思考力・応用力を問う問題は、昨年度9問24点、今年度3問9点で、基礎的な知識に基づいた論理的な思考で正解にたどり着ける問題は減少した。また、時事的な問題は、昨年度の3問9点から2問6点へと減少し、資料を活用して分析力・判断力を問う問題は、昨年度4問12点、今年度3問8点で減少した。教科書に基づく知識を問う観点からの出題が大幅に増加したことが、今年度の出題の特徴と言える。
- (2) 各分野の問題配分及び配点については、政治分野が17問45点、経済分野が21問55点の比率となり、やや経済分野からの出題が多くなっている。また、基本と応用という観点での分類では、基本が94点、応用が6点で、基本からの出題が応用に比べ例年以上に多くなっている。

4 試験問題の表現・形式

設問数は、昨年度に引き続き大問数5、設問数38で変更がなかった。リード文は、よく練られた分かりやすい内容で、文章量も各大問ほぼ同じ量で提示されていて、選択肢の文も短く簡明な表現となっている。問題はすべて、リード文を読んで正答を求める形式が定着している。なお、第1問の問3、第2問の問4、第4問の問1の出題形式については、説明文の数を増やすなど、さらに思考力や判断力を問う形態に工夫されることを望む。

5 要 約

- (1) 高等学校学習指導要領で高等学校教育に求めている内容にそって、広範囲にわたって出題されている。身近な社会問題をもととした多面的・多角的な考察や国際的な視野を必要とする良問が見られ、正確な知識・理解と丁寧に文章や資料を読み取る姿勢が求められている。特に、「資料やグラフ・図表などを使って基礎的な理解力や分析力・判断力を問う問題」は、高等学校学習指導要領が求める「作業的・体験的な学習」に即したより良質の出題を希望する。
- (2) 全体として教科書での学習を基本とした出題となっている。今後は、基礎・基本を土台に応用力を様々な形で問う形態を増やしていくことを希望する。

- (3) 時事的な問題を出題することは、高校生に日常的に社会的事象や現代社会の諸課題に対する興味・関心を持たせ、公民的資質を高める機会となる。今後も時事的な問題の増加を望む。
- (4) 昨年と同様に、リード文をしっかり読む姿勢が求められている。その内容に関する理解をもとにして判断させる出題がなされており、リード文を丁寧に読むことで、正答を得られるものが多かった。
- (5) 「政治・経済」では、現代社会を理解し主体的にかかわっていく能力を育てることが求められる。日々変化する社会的事象の本質を総合的に問うセンター試験は、高等学校教育のあり方に対する重要な指針となる。今後も、政治や経済の基本的概念や理論の理解を求める創意工夫された問題とともに、資料や時事問題から多面的・多角的に考察させる問題を期待したい。

資料

注：（ ）内の数字は配点、また*印は基本的な問題と判断されるものである。

主に教科書に基づく知識により正解が得られる問題	第1問 問2 (2) * 問3 (2) * 問4 (2) * 問5 (3) * 問6 (3) * 問7 (2) * 問8 (3) * 問9 (2) * 問10 (2) *	第3問 問1 (3) * 問2 (3) * 問3 (3) * 問4 (3) * 問6 (2) *	第4問 問1 (2) * 問3 (3) * 問4 (2) * 問5 (3) *	第2問 問1 (2) * 問2 (3) * 問4 (2) * 問5 (3) * 問6 (3) * 問7 (3) *	第5問 問1 (3) * 問2 (2) * 問5 (2) * 問7 (3) *	計 30問 77点
主として教科書に基づく知識を使って思考力・応用力により正解を導く問題	第3問 問5 (3) *	第5問 問3 (3) 問6 (3) *				計 3問 9点
主として時事的・社会的な知識から国内的・国際的な諸課題を考えさせる問題	第2問 問3 (3) *	第4問 問2 (3) *				計 2問 6点
資料やグラフ・図表などを使って基礎的な理解力・分析力・判断力を問う問題	第1問 問1 (3) *	第3問 問7 (2) *	第5問 問4 (3)			計 3問 8点